

アイテムしごと探検隊



同じビルには、Jリーグ関連会社も入っています。今回は、そのうちの2社からどんな仕事をしているか教えてもらつた。「Jリーグエンタープライズ」は、ロゴが入ったオフィシャルグッズを扱う会社。新商品の企画やデザインのほか、多くの店舗に商品を置いてもらえるようにする営業の仕事もあることがわかつた。

隊員の感想コーナー

- 大きいスタジアムなのに、たねまき、水やり、とかをやって大変なんだと思った。(海田さん)
- ほかの学校の人と友達になれたり、スタッフと仲よくなれたり、サッカーのことがよくわかったので、とっても楽しかったです。チエアマンの鬼武さんのいすにすわってラッキー!(中村さん)
- みんな、じみなところでがんばっているのがわかりました。これからは、みなさんにかんしゃしてサッカーをがんばっていきたいと思います。(岡田くん)
- ぼくも中西さんのような選手になりたいです。(高野くん)
- なにをやっても仕事は大変だなーと思いました。今日、たいくんしたことをこれから活用ようしていけるようにしたいです。(山田英介くん)
- 審判は90分も走りつづけていて、よくばてないと感じた。(渡辺くん)
- どんな仕事もすごく大変だと思った。だけど、どんな仕事も大事だと思った。(亀井くん)



●「アイテムしごと探検隊」ご協力のお願い
(株)アイテムでは、訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しております。子供たちが「仕事」について考える機会を一緒に提供して頂けませんか?

お問い合わせは「アイテムしごと探検隊」事務局まで 0120-938-989

関連会社の仕事にも触れる

中西さんへの質問は、サッカーはどうしたら上達するかに集中した。「周りを見ながらドリブルをしたり、考えながらパスをしたり、同時にいろいろなことができるよう、常に冷静でいる。毎日の練習を大切にして、基本的な技術は当たり前にできるようになることが大切」と中西さん。食事の内容や睡眠時間にも気を配り、ケガをしない丈夫な体を作ることも大事だと教えてくれた。有名な選手の名前をあげながら続く説明に、子供達も具体的なイメージを頭に描けたようだ。



わかりやすい解説に子供達も納得

毎回、隊員に選ばれた子供達をやさしく迎えてくれる。チエアマンに初めて会つたはずの子供達も次々と質問を浴びせて、スタートから時間が足りなくなるほど。「チエアマンのやりがいはなんですか?」という問いには、「スタジアムを満員にすること」と、つっこり。「サッカーを通じてたくさんの人人が友達になるにはどうしたらいいかを、いつも考えています」と答えてくれた。



子供達にもフレンドリーなチエアマン

「アイテムしごと探検隊」が、Jリーグ事務局を訪問するのは今年で3回目。今回のナビゲーターは、JリーグOBの中西哲生さんだ。

Jリーグに関わるいろいろな仕事

今回の探検先は…

社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ事務局)

東京都文京区のJFAハウス内に位置するJリーグ事務局。チエアマン室や約40人のスタッフからなるフロアを中心に企画・運営が行われている。同じビル内には、オフィシャルグッズを扱う「Jリーグエンタープライズ」、映像を管理する「Jリーグメディアプロモーション」など関連会社があるほか、「日本サッカーミュージアム」もあり、全国のサッカーファンが日々訪れている。

●探検実施日：2009年3月27日(金)

試合を見守る審判員も、体力が勝負



Jリーグ担当審判員の

岡田さんが審判の使

道具を見せてくれると、

子供達からは小さなため息が漏れた。

審判の仕事は、選手が安全に、公

平に、楽しくプレーができるように見守ることだという。試合前には、ボールの空気圧や選手が使用するスパイク等をチェックする。試合中は常に走り続けるため、日々のトレーニングが欠かせないそうだ。「選手だけでなく、時には審判も応援してね」と微笑む岡田さんに、子供達も元気にうなづく。

さるよう見守ることだという。試合前には、ボールの空気圧や選手が使用するスパイク等をチェックする。試合中は常に走り続けるため、日々のトレーニングが欠かせないそうだ。「選手だけでなく、時には審判も応援してね」と微笑む岡田さんに、子供達も元気にうなづく。

芝生管理は自然との闘い

ところでの芝生が一年中緑色なのはどうしてなのだろう。「夏と冬、季節によって種類の違う芝生を育てているからです」と教えてくれたのは、国立競技場の渡辺さんだ。20年ほど前は夏用の芝生だけを育てていたため、冬になると表面が枯れてしまっていたそうだ。より安全にプレーできるようにと研究が重ねられ、現在は芝生が約半年ごとに入れ替わるように、入念に管理されているのだ。

「Jリーグメディアプロモーション」は、試合の映像を管理する会社。一九九三年にJリーグが開幕してから今までに行われたJリーグの試合を中心にして、およそ1万試合の記録が保存されている。火事などで消失しないように、同じテープが2つずつ作られ、東京と埼玉の倉庫で保管されているのだ。

子供達は、チエアマン室やスタッフが働く執務室のほか、日本サッカーミュージアムを見学して、Jリーグ事務局をあとにした。



子供達に、「仕事」を感じてほしい

Jリーグ事務局を訪問して、子供達はどんな思いを抱いたのだろう。アイテム本社に戻つて、みんなで探検を振り返った。「芝生の管理は大変そう」「だけどやつてみたい!」「審判もかっこいい」「グッズを作る仕事もいいなあ」「チエアマンになりたい!」「取材もしてみたい」…。初めて集まつた隊員とは思えないほど、会話がはずむ。子供達が大好きなJリーグは、あこがれの選手ばかりでなく、さまざまな人たちの仕事で支えられていることを、感じ取ってくれたようだ。



「自然の気候と相談しながら調整していますが、最近は温暖化が進んでいるので、管理が難しくなってきてます」という説明に、子供達も真剣に聞き入っていた。

週刊誌づくりは時間との闘い

「サッカーマガジン」の編集記者・柳澤さんは、雑誌ができるまでを説明してくれた。編集部全体で話し合つた企画に沿つて、記者が選手や監督等を取材し、原稿を書く。ページ構成やレイアウトをデザイナーと話し合い、ようやく誌面ができ上がる。たつた1ページのために、数バターンのデザイン案を検討することもあると

ができます。週刊誌を作るために、膨大な作業が毎週繰り返されていることに、子供達は驚いていた。

「サッカーマガジン」の編

集記者・柳澤さんは、雑

誌ができるまでを説明

してくれた。編集部全體

で話し合つた企画に沿つ

て、記者が選手や監督等

を取材し、原稿を書く。ページ構成やレイアウトをデザイナーと話し合い、ようやく誌面

ができ上がる。たつた1ページのために、数バ

ターンのデザイン案を検討することもあると

ができます。週刊誌を作るために、膨大な作業が毎週繰り



中西哲生氏プロフィール
1992年 名古屋グランパスエイト
1997年 川崎フロンターレ
2000年 現役を引退
現在はサッカーデザイナー、スポーツジャーナリストとして、テレビ番組を中心に活躍中。